

【第1回】平成25年12月24日

【第2回】平成26年3月25日

【第3回】平成26年5月24日

【第4回】平成26年7月31日

【第5回】平成26年●月●日

【第6回】平成26年●月●日

本資料は、各回の協議内容を論点毎に整理したものである（類似意見はまとめて記載）。

### 【くすのき認定こども園について】

1. くすのき認定こども園に関し、保育内容、教育内容、保護者活動ほか詳細な情報を説明会や広報等で周知し、保護者の不安解消と市民の理解を深めるよう取り組む必要がある。
2. 長時間利用の子どもが寂しさを感じるかもしれないなど、子どもたちの感じ方や想いに配慮した対応や運営を期待する。
3. 幼稚園と保育所の合併をプラス志向で捉えて、お互いの良いところを取り入れながら、より良い認定こども園にしていくことが期待される。
4. 認定こども園ができるとお母さんたちも就労意欲を持ちやすく、子どもをそこに預けて仕事を探すなどお母さんの人生の選択も広がり、泉大津市の子育て環境が良くなってきているという実感を持てる。条件を整備することでニーズが増えていくということもある。

### 【計画内容（協議テーマ）について】

#### （基本となる考え方）

5. 「子どもの最善の利益を守る」「すべての子どもに良質な成育環境」「子ども目線」を中心に据えることを共通認識とする。
6. 保育に関する「量」と同時に「質」を考えることが「子ども目線」の追求につながる。

#### （ニーズ量）

7. ニーズ量を検討する際に現行の「次世代育成支援後期行動計画」も参考にする。
8. 計画策定以降、状況やニーズに応じて、様々な条件整備に努めていくことが必要。

#### （障がい児、要配慮児童への支援）

9. 障がい児を含めてすべての子どもが最適に成長のできることが基本。親の就労に関係なく、すべての障がい児を支援する仕組みを確立するべき。
10. 支援が一番必要な障がい児のことを考えていくことこそ、すべての子どもたちの保育・教育の質を高めることにつながる。
11. 民間やNPO法人で障がい児への放課後サービスを行うなど、着実に支援は充実してきている。一方、障がい児の保護者のニーズにどこまで対応するのが良いのかも同時に検討すべき課題。
12. 一時預かりについて、定員がいっぱいのため、配慮する子どもを断らざるを得ないケースが

ある。

#### (幼保一体化)

13. 幼保一体化の考え方（現行の幼保一体化方針を踏まえつつ）
14. 本計画と「泉大津市立認定こども園についての基本方針」の関係について。最終的なニーズ量に関しては子ども子育て会議で決定していく。

#### (なかよし学級（放課後児童クラブ））

15. 利用者数の増加に伴う過密化、マンモス化の解消が必要。施設の改善を求める意見が多い。
16. 保護者の声や就労の実情に見合った開設時間の見直しを。土曜日や夏休みの開所時間（現行9時から）を8時半か8時に早めること、夕方は平日を含めて7時まで開設してほしいという希望が多い。
17. 多様なイベントを取り入れ、外でのびのび遊べるよう、内容の充実をさせてほしいという希望が多い。
18. 重度障がい児に介助をつけて受け入れる体制の強化。

#### (病児病後児保育)

19. 子どもが病気をしたり、ケガをしたりした場合にどう対応するか、どこの家庭でも頭をいためている。
20. 利用したくても手続きの煩わしさや、病院で診断書をもらうことに時間がかかるといった手間の問題などで利用できないこともあるはず。病児病後児保育施設を市民病院に併設するなど、体調不良児への対応を含めて、保護者が利用しやすい条件整備を整えてほしい。
21. 医療的なケアを進めるにあたっては多方面と連携していくということ。

#### (地域子育て支援事業)

22. 泉大津市は歩いていける範囲に施設があるので、お母さんたちにとっては役立っている。

#### (一時預かり事業)

23. 幼稚園で一時預かりが可能であれば、顔見知りのところの方が、子ども、親もストレスが少ないと思う。
24. 認可の一時預かりがいつぱいの時には、認可外を利用せざるを得ない。そのため、区域に一時預かりができると利用したいし、精神的に安心する。

#### (家庭での子育て)

25. 0歳から自分の手で子育てをしたいという保護者も多い。保育所数が多ければそれでいいという問題ではないという気がする。
26. 女性の社会進出を保障するというのも大事だ。
27. 特定教育・保育施設だけでなく、その他の事業とも連動させて利用していただけるようにするというのも大切だと思う。

(上記以外)

28. 子育てのニーズに合わせて多様な子育て支援策を地域ぐるみで展開していくためにどのような施策をどうつないでいくか。(サービス主体の役割分担とサービス間の調整)
29. 地域型保育のあり方
30. 特定施設等の利用定員
31. 就学前から就学まで一貫して子どもたちが安全で安心して暮らしていくために必要なこと。子どもの成長に合わせて一貫性を持った支援を受けられる継続の視点。
32. 家で子育て中の親子への取り組み
33. 公立幼稚園同士が良い意味で競争をしながら、幼稚園の質を高めること
34. 大人になって出産年齢を迎えた人たちが産み育てやすいまちを創るということも大切にしてほしい。

【アンケート結果からの考察について】

35. 泉大津市は自然環境に恵まれているとはいえない。だからこそ、人間関係を中心とした社会環境の豊かさを活かすなど、アンケート結果を一面的に読み取るのではなく、子どもたちを取り巻く多様な環境を活かして次世代を育成する方策を検討すべきである。
36. 子育て中の母親の中には、夫の実家の泉大津市に嫁いできたため、夫の親族はいても周りに親しく相談できる人がいないという人もいる。アンケート結果に表れていないが、こうした実態も視野に入れる必要がある。
37. 認定こども園、幼稚園や保育所などを利用していない人など、情報が届きづらい保護者への一層の周知、「子ども・子育て支援新制度」の認知度を高めることが大切。
38. 「利用のしかたがよくわからない」「利用したくても手続きが大変」だということで利用を控えている人もいる。情報をいきわたらせていく必要がある。

【教育・保育提供区域の設定について】

39. 「近い」という理由ではなく、「先生の熱意」や「施設環境」などの理由で幼稚園を選ぶ保護者は多い。
40. 子どもたちや保護者が雨の日などでも安全に容易に移動できること、3区域の中に複数の保育、教育施設などをバランスよく配置すること、駐車場などを含めた利用のしやすさを考慮。
41. 中学校区域(3区域)であれば、たくさんの友人や知人といたつなかりを幅広く作っておくことができる。
42. 2区域あるいは小学校区8区域も検討したが、長所・短所を考慮して3区域が最もバランスがとれる。小学校を終わって中学校に進むことを考えると中学校区は生活実感がある。
43. 地域の中で子どもを育てるのが基本。施設にとっては緊急の時に対応しやすいということも大事であり、中学校区域ではあれば対応できる。
44. 地域内の利用が原則だが、駅の近くなど、地域を超えて利用可能であれば良い。
45. 3区域で決定。

**【会議スケジュールについて】**

46. 優先して検討すべき事項を精査し、事業者が平成 27 年 4 月から新制度に基づくサービスが実施できるようなスケジュールを進める。
47. 国の方針が遅れており、重要な公定価格に関する決定も延びている状況であるため、市の進捗も遅れ気味である。年間の会議回数の変更は考えていないが、工夫しながら、十分な議論をしていただけるように努める。

以上